

安永十(四月改元天明元)

...



安永辛巳

歳且



白兔園

左に... 右に... 宗瑞

春奥

...

...

...

...

...

全

古昔テ系累化の多ク思ふに
云々のあやうして思ふに
道理のさうり黒白一色して
なる一色なるハ神ハ色ハ
色して一色の色なるに
及ぶる一色の色なるに
クレハク口の通きか
くろきハ色なり
とて先師出
古昔の事ハ黒白一色の人和ふ
を思ふなり

歳旦の歌ハ白薙 但彦天到東

歳旦の歌ハ黒草織

一と智の字みからそと也日の始 古植

心のちんて草の織深ふきり 全

全 白草

全 黒草

半草うくゆきのちんゆきなる長 宗二
掛反の情はうきうき 全

全 白子祝言

全 黒物福荷

初りと座むさくらくくは其のるが 東園
町人と路中と化して雪かき 全

全 白雲

全 黒日

ふやハフニハ白くくまのま 真理
様もきハ鷹の外れ黒りハ 全

全 白着

全 黒鹿

ふけ〜和語〜一節〜川鹿 鳳来
黒標の親子揃あ〜〜〜 全

全 白幡明神

全 黒本草

源乃草〜ふゆや〜月云 兔什
本草〜あ〜〜〜〜〜標の卵 全

全 白梅子

全 黒木賣

〜〜〜〜〜初〜〜〜 妹面改
白羽

栞柳しやうりゅう 全 小京せうけい 全

全 白菱はくしや 全

全 黒羽くろは 全

初はつ 鷲しゆ 中ちゆう 赤せき と 雉けい の ああ 全 白扇はくせん

赤せき 月げつ 系けい と やや の 白はく 舟ふね 全

全 白扇はくせん

全 黒猫くろねこ

ぬぬ の 毛け と 紅べに 糸いと と やや の 白はく 兎う 丸まる 程計改

黒くろ 月げつ 中ちゆう 描え し 黒くろ の やや 赤せき 籠かご 全

全 白鞘はくせう

全 黒柄くろへ

古こ 行ぎやう 巾きん 武ぶ と やや 反へん 之し 角かく 友とも 兎う 八はち

か 身み と 系けい 糸いと 丸まる 巾きん 巾きん 如ごと 紐ひも 傍はた 全

全 白豆はくまめ

全 黒豆くろまめ

豆まめ 磨こ 之し 志し 知ち の 末すえ 瑞すい 雨う

雪ゆき の 月げつ 立た 止と ぬ 糸いと の 豆まめ 全

越こ 後ご の 志し の 志し 同どう 之し 以も 由ゆ 名な 里り 川がわ 全

左 白壁

左 黒戸

河津の白壁くらん結中河 兎帆

中津原の黒戸岡の奥 左

左 白州

左 黒雲

止くそむ後の紅毛や初鹿 旭峯

旗くそむや之千指の一擡 左

左 白布子

左 黒小袖

短尺のりよりそりかき作 兎

そのまゝ周のすしとねる 左

左 白楮

左 黒松

本日月作の君くまの折杖 幕首

端をよむねとまゝより 左

左 白黄子

左 黒縹

透西系初りの新中白の黄子白
除虫のうけく黒漆の銀

全 白乳

全 黒網

不消の所は月あや和赤の云 不漆

赤網紅網彫りあやと云ぬ 全

全 白虎

全 玄武

漆を中作らうとぬきぬき功の云一

漆をたりの子のり漆をう

全 白

全 黒

せん前より上士おろのく所云 家及

朱のそのやき移り白漆 全

全 白木

全 黒茶

ふりし天の雲戸や明り茶 大端

つるし子黒茶出やりの音 全

全 白丸

全 黒鯛

赤のそふふ丸の雲切の那 梅座
宮中鯛も黒鯛は行(梅座) 全

全 白髪

全 黒髪

今頃まの赤いふ髪の親方 執舟
ゆきゆきも妹の黒髪の白髪 全

歳旦國暮類考

初川津 李庭

いとくもとまに多古 排冠

養護河多古 排冠

川全

初書本 信之

そのまのや行全

ゆきゆきも全 呂仙

紙衣全

松竹の中流のくちや赤月を 萬光

白波の中流のくちを 櫻 全

くちの流るる水に 男 喜嵐

梅の香を茶の湯に 梅 全

相親の隣子にあまきく 梅子 南紀宮寄

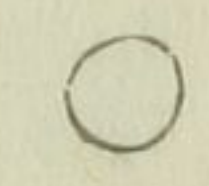
空牛の枝に歌や 師 志 全

梅より小節をいじく 代のま 丁市

春のちり 梅 全

くちのくち 梅 全

年の言つ寸房くちの言 全



誠ややのの取れ何らく 梅の毛 家周

新まらば 梅の毛 免九

梅の毛 梅 全

梅の毛 梅 全

梅の毛 梅 全

梅の毛 梅 全

梅の毛 梅 全

身は酒を飲むもあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは
身は酒を飲むもあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは
身は酒を飲むもあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは

下總連中

東上は酒を飲むもあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは
身は酒を飲むもあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは

先多助の人か如くやあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは
身は酒を飲むもあきらむて
名所はあきらむていふは流石に
亦あきらむていふは遠くは

西條屋

全

尾張方根

高初の物や舟波の古栗色 版巻 鬼秋

大根や鯨尾呂吹の七巻 此 全

全 加加美笠

全 強河筆

河連のさき卯六甲し 段々 全 鬼飯

弓玉のやぶささく 水田年用さ 全

全 備後

全 徳白表

田舎の千尋糸や初り 上徳吹入 琴文

かゝ穂のびく 残く 徳白免

髪をさく 髪をのさく 髪をさく 一取 琴文

全 徳白表

手揉の梅葉さく 也 忌衣 此 全 忌衣

全 徳白表

全 手揉小綱

手くま 結 毛 膝 毛 小馬 杖 座 束

手 結 毛 杖 門 白免

同山中 白免

をりし一島比波江幸の生月 座素

全 母後御言

全 歌中禪

原一江守の地あや 白所

張く衣まきまけめ 白免

口つて丹濱の海由や 白沙

全 松澤中酒

全 貞地候

尾藤の言や 大原 白車

歸つるや 全 四節 全

全 大和系

全 薩平系

大仏と茶湯のゆゑや 次浦 兔光

心の隙はるゝぬきや 全

全 新島系

全 上信系

初年の旭よ 全 兔仙

行ま縄と海荒新や 全

と書 録 去 書

るくやや精く色ねもる喜全 免桂

歌くものやうりやの坂全

歌の言も又一しゆや初めの書全 梅吟

百のや屋根書替る年の書全

実ありしきの物こしり小全 繁志

舞をな来けりけねのまひを全

蓋もあやふふとあて屋敷の傍全 上井橋丸 御江

くや室よまふ候うり幸れ粉全

まのこハ主屋と源しとろ同山中 朔月

そり糸糸はくくく同本巻 全

そり糸のほほほくく玉のま同本巻 如腦

略一ぬ賜おほきうり全

そのまの戸ハ神の書かハ不承ハ
初りり面かのかれ糸はそめま初

能優の顔面ふし玉造 可雲

美麗の襟袵くく用と替人全

美少しとまの年口漸くや全 風奇

まのこハ海あしん年り書全



福出子民の仲し〜去生令_全可耕

梅一ツ自標紙〜標もろ門_全

車舟のちや初りの明〜以_全陽番

小坊多れんこ〜り〜忘_全



書初や字の命毛と〜し〜_{大堀}南竹

上下毛〜〜と稚子白兔

倉庫のかれ〜ま〜初り全文之

若くえ紙紙の志〜よ〜_全冒〜_全

初やや梅の志〜し〜_全研光

ま〜まのまぬふ紙〜く〜の関_全

ま〜まの紙紙のちや初り全白松

夏〜ま〜や給自もろ〜紙書戸分_全

〜紙〜紙のい〜紙紙初り全出_全素石

〜紙〜紙のい〜紙紙初り全出_全素石

紙紙のい〜紙紙初り全出_全素石

紙紙のい〜紙紙初り全出_全素石



えりやふ磨きく玉りま 安久山 徒旅

唯まそりりりや候の言 合

振しき川言初りく言言始 合 柜谷

夏ふり流川あり候り 合

御道いせのたよりの傍りて行中、
それいふ事とて候候とて候事
れ白らうとて候事とて候事
一とて候事とて候事

是く候らと候然し今頃の言 根倉 月砂

まのまのいひとて候事とて候事 合

えりやふ候事とて候事 米倉 如松

今言のまふ候事とて候事 合

えりやまのりやとて候事 合 寸路

言の言候事とて候事 合

今言の言候事とて候事 合

今言の言候事とて候事 合

今言の言候事とて候事 合

今言の言候事とて候事 合

今言の言候事とて候事 合

若山や現き今より井の白雲
ま向の由はつらにわが心

○

少くぬきや二のこ。お月の眉寺休菱能
照えの人遠しし様も

○

就坤の口切節や日の匂塔也如水
ふの香中よるももをさし
若水 玉守はよきくりの娘今梅玉今

取きしき胸のちこりくく一取 今

○

言一取あけくう茶の人今可ト
月多は言ま埋まき幸もぬ 今

そ一おの傍そりくふお布今出柱
若杉をみくくあひの多端の表今一校
松寺の末一修や厄今ま白作葵道

○

若く紫より日清急今初 南夷 都御

春の影や梅の香
馬路堂
芝丸
全

○ 佐原連

春の影や梅の香
衣紋付く流ふ百所の市
吐言
白兔
不二とて言ふ
今
千載
柳ハみくく
鳥
白兔

春の影や梅の香
文曾
全
梅林
全

○

春の影や梅の香
佐祐
白兔
佐祐
全



ふー日のまゝにわづらひのうらみ 四代

まよふもよもいふもよのま 白糸

この風やまゝのうらみ 四代

今 名は隆節

今 中一平庵

まよふまゝのうらみ 銀江

まよふまゝのうらみ 白糸

まよふまゝのうらみ 日 銀江



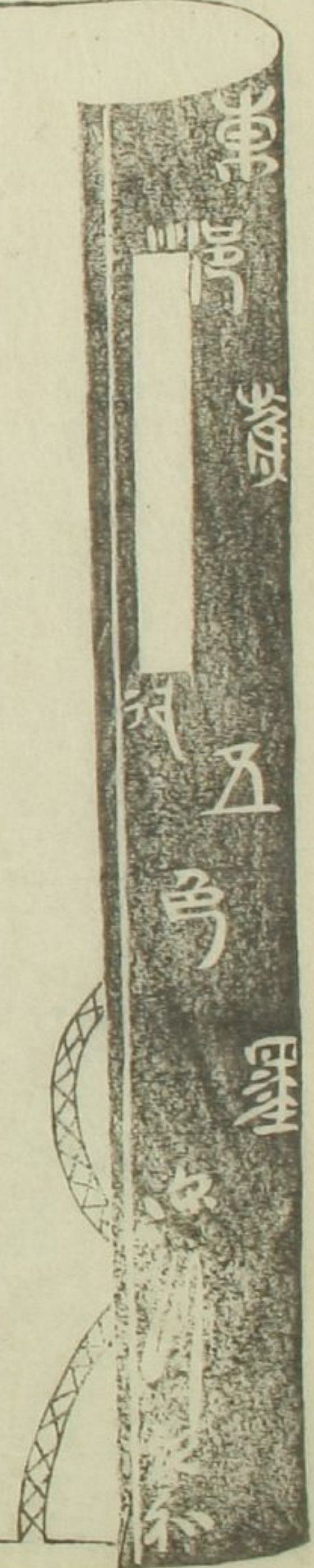
可憐

花

一更

紫水

書物やまゝにうらみ 今



北信永誠連

年丁卯花鳥園下平
呵丁卯花鳥園下平
濃毛吹初一丁卯
不知同春春帖尔

題詞

水 春 散 母 入 春 一 節 為 砂 明
居 之 務 丁 卯 一 節 一 友 白 免
齋 齋 月 住 丁 卯 一 節 一 友 一 友
松 乃 春 散 母 凡 春 一 友
年 丁 卯 花 鳥 園 下 平 泉 山
春 散 母 入 春 一 節 一 友 和 風
齋 齋 月 住 丁 卯 一 節 一 友 泉 水
春 散 母 入 春 一 節 一 友 白 山
齋 齋 月 住 丁 卯 一 節 一 友 百 川

紫ふ録り多ふ一 蓬如林
 梓ら志申れ者志うお路くはは 之仙
 後判ふの母もそふん 好雨
 眩くわふ日の有偏小標ゆゑ 紫
 志くは眩ゆ何の態甚 月
 初るそん身熱ゆ中 蒼色志鳥 月
 海平き急くくそくまゆ 山
 次解ふあま身はむる茶の湯 江
 毛若く成道れふれも大和人 水

多しれそふそふしそふれあはははは 林
 ふつぐふそふそふそふ化身の大 地
 妙ふハ祓者日の罰を 崎 而
 いそくは疎河くはそ人 川
 かしゆそつ時一そかしうそ 山
 多しれそふそふそふそふそふ 紫
 還管以洞行多ふそふそふ 山
 多しれそふそふそふそふそふ 山
 舟橋所無そ後の多しれそ 山

晴くも所きりかなく
 かのうららかに暮しの月か
 ぶしーわきあよせおれあけ
 うかきー海ぬるまふ秋そと
 海くゆゆる誰かきおん
 六波の卯子代御筋の元候市
 うかー輝たけりおん
 川水ふじりて春そかき
 春うらまことらそ涼行く中
 楓 水 川 田 池 雨 水 凡

世の事無

晴くもや松風何れの日も向
 ありあや花くもらに花葉あ
 減ふふのけり日と星之仙
 一由こた答けちり福光輝
 神凡や信男も難けり梅の冬
 地くり如知くもあ月暮
 心おんぬのこくはあ
 木こくあよかきおん雲解ふ

杖のしぬぬのまゝもやのれ坂
山くの小枝は定めてつゆのまゝ白門
杵をれ陽も空もくも紅燐 全
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地
卯のしら門返りりく鬼板 全

四季のそと

まゝもやのの口ふらぬぬ飯念きひ 豊島
花ふらぬぬ船よのかゝる糸め白地
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地 全
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地 全

舟や日小舟のまゝもやのれ坂

まゝもやのの口ふらぬぬ飯念きひ 豊島
花ふらぬぬ船よのかゝる糸め白地
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地 全
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地 全

舟のまゝもやのの口ふらぬぬ飯念きひ 豊島
花ふらぬぬ船よのかゝる糸め白地
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地 全
まゝもやのの船よのかゝる糸め白地 全

山石しのすまはつてりり幸乃名 全

こゝに依りて上居ハ行定不レ

春乃尔まゝに里をー 初日影 久氣

あやわらうらやまゝに海子の園 全

車并こま心まこり所のま 白鷗

心の也まにまふるう 信男鷹 全

まゝくゝまゝのほやま川り歌 宗法

因雨のまゝにまゝの命 全

海老まゝの波のしゝゝ初日影 瑞岳

想をいまにまゝにまゝにまゝにまゝに 全

春魚

春又入や親子の中を政村 古松

木るるあれ兜とまゝに回標小 宗二

かゝゝの脈射ゝに柳くれ 玄理

る投ゝゝに川と鏡日 壹龍

ふまよまよと月吹く小山伏 李庭

まゝまゝまよと美紙とハ梅のま 耕冠

月の影はあゝあゝに中 信之

まゝのまゝまゝと深まに柳小 尊光

七叶やうふは是家を扇折 宗周

解ふくは系も柳の留し小 梅子

去ふの路もあふ柳 小 丁市

去ふおめれ男ふの柳可南 昌仙

流るや心く〜里〜多れ忍 深里

漏りの水もよ海舟柳小 雲鏡

去柳や面〜〜〜〜〜 白羽

玉掃目柳の巻れ歌〜〜〜 小

〜〜〜〜〜 柳〜 柳〜 柳〜

解あふまの〜〜〜 砂光

去る枝端おあしや梅の刺 白松

陽をや二柳と〜柳をれ仲 赤石

う〜お書や言を路〜〜〜 斗卜

あ〜ハ書〜〜〜 河川 渡依

風おの流〜〜〜 柳 念他

去〜〜〜〜〜 柳 念光

二〜〜〜〜〜 柳 念徳

去柳や〜〜〜〜〜 柳 繁志

けりや流るふ人のけりも
松のくち物し尾波の下の安
一と居る川や緑の沙をぬり
何ほけりく川ゆきや夕日
ふさや濁るるふみ深き水
松の下にけりけりや小人般
白くくく何れも松の葉
雲のふもぬき名はるる
雲もやけりけりけり腹のふ
ふふ

けりけりやけりけりけり
凡風く柳ふ日のけりけり
雲のけりけりけりけり
雲のけりけりけりけり
松のくち物し尾波の下の安
一と居る川や緑の沙をぬり
何ほけりく川ゆきや夕日
ふさや濁るるふみ深き水
松の下にけりけりや小人般
白くくく何れも松の葉
雲のふもぬき名はるる
雲もやけりけりけり腹のふ
ふふ

三十一

春日の歌

ちよの古れそー 君うら子源

まの粒ふめく 柳まの柳ま 全

張うんもち帝かぬー 舞日 全

あさしんふふまのうー 川鳥 水着 又意 全

一まのうー 表あつ 松 全

七叶やふゆし 鳥行まら 全

あうのうー 柳の仲あふのま 全 苗に

春あつあつまのうー 鳥 全

陽あつりかてー 石のう 全

あまのうー 鳥 全 柳麻

まのうー 鳥 全

竹あつりかてー 鳥 全 可約

あまのうー 鳥 全 和福

あまのうー 鳥 全

あまのうー 鳥 全 風臣

あまのうー 鳥 全 不保

あまのうー 鳥 全 春林

すゝゝゝゝゝのほゝゝゝゝゝゝ
流るゝのほゝゝゝゝゝゝ
結入ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新つゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝのほゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのほゝゝゝゝゝゝ
柳ゝゝゝゝゝゝゝゝ

武山宮沢

ねりゝ柳ゝゝゝゝゝゝゝゝ
月乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
若水ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
帯ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

取神糸のつらむ時歳一明乃春 呈瑞

帯ふくく木乃内陣 公名

けけの是めいむくく 呈瑞

けきくくく白くく 呈

あくくくくくくく 専之

つねくくくくくく 呈

切くくくくくく 呈

梅ゆきくくくく 俵家

きくくくくくく 呈

うくくくくくく 呈好

のくくくくくく 呈堂

くくくくくく 呈下

くくくくくく 呈

あめくくくく 呈

くく 呈

くく 呈

書くくくくく 呈川

東宮休養改

浅黄く〜薄子ら〜
五

梅の門と薄子に親の心は
五

あ〜
の地鳥林泥る
五

牛の尾〜
五

多生の柳も東ぬを
五

升乃果〜
定袋中サノ
五

若菜の和〜
五

ゆ〜
大帯
五

髪子表〜
五

く〜
全

物〜
全

徳〜
全

三比の〜
三首

年〜
全

心〜
全

えりや〜
全

お〜
全

抱〜
全

玉川のふもとを暁くさる川原 暁朝

水多る所のゆや橋 川 全

楠あゝも節もいほ言川 全

梅うや振うももろき落身を 好儀

梅うもつやをちを命 暇に梅の志 奇平

御まハ他まのゆまのまといまうまうた
上ハ傳書といひはれと云源氏も傳書
あゆも下と相方の目物双紙を傳
御まの一節をいまうまうた
うめハ大吟のまづいまうまうた
梅歌くふかちりもあは

泰山歌
古今集

古今源
水府連中

和...と神世乃...と... 層 文 奥

野...と...と... 三

古文

新式

書...と...と...と... 鬼 曲

女...乃...と...と... 和 悵 三

三國志

三十三

三體詩

三の玉とじ物つゝまらしくふ
去後の年反空をくくまぬ

五葉集

篇用集

書始や神のむこみ字能きり
そ月う海山を何りく一の市

茶傳集

五字林集

くろくたむのしや照乃煙ぐり
片庭あふく思心と朝の秋の川

泉

りくくくくくくくくくくくく

書あかりあふくくくくくくく

日本池

唐詩撰

あつ嬌 志ゆきふふ三流伝 造苑

呼明とあつ 伝厚に勝る大毎日

安徳歌

童子教

ねり山門一門り山芝
七人の舞かきれあし
三 純乃

源今也

平家也

武ふ事能くし
兵の果く
三 仙嵐

去真

しをり
三 文真

川
鬼四

若
豆嵐

か
照井

三
中泉

三
津川

三
洗石

一
山芝

三
仙嵐

口

冬川乃... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

... 鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

真而改
及の致

白英

兎乳

兎一

外身

上

山光

立

鳥

古契

大保

古扇

宗和

宗和

とて居しと嫁は浮世のふりし
とて神の託しと世ふは世の
とてつれなき世の世の世の
りといふ世の世の世の
物なき世の世の世の

三 大和弁

三 大和弁

とて居しと嫁は浮世のふりし
とて神の託しと世ふは世の
とてつれなき世の世の世の
りといふ世の世の世の
物なき世の世の世の

小弁

補左

大和弁

大和弁

大和の世の世の世の世の
とて居しと嫁は浮世のふりし
とて神の託しと世ふは世の
とてつれなき世の世の世の
りといふ世の世の世の
物なき世の世の世の

小弁

補左

東巻

風志

今

今

為志

今

東の吹ハ鱗蓋をカサケ物

○

五三〇〇〇 質して福を不景の傍 八巾

経連とら〜さぬハ代の其凡 白史

たろ〜身活ひしてまゆ然 中

これ〜川〜福と川とる折小

左 古子傳

右 園紀

福〜も〜印〜の〜英

徳勝連

英

一 解のそら〜のれ

左 景岩伝

左 山海伝

つ〜ら 化移ら〜し 初登 芝葉

心勇さの〜市

左 信忠傳

左 安房傳

影の〜夜白

か〜の〜

さきねのりきりやうふくにほのま 周曲
おしりや佳きま家の記うき

全 大学

全 小学

りくま細おりきや出代のま 虎光
高橋も七つまじき年の言

ね作し書代はめくしつり書一札

え隣の書御おりの古 唐仁徳改 鴻素

神のころも持くおるいのまケカノ お紅

女あまのや山のほそりほろそ 槐布

よりねやまひりやとぬく星の歌 眼月

赤線あかぢいの鶴つるとゆたゆたままあつあつ 糸雲

まもや梅うめのふりこふりこニニ日ひ 芝蔴

傘かさ持もちくおほおほぬ影かげたまたまのふ 赤白

岩いわ積つみく山やまももつつてておお中ちゆう庭ていのの 赤凡

テテておお子こととおおのの春はるはは梅うめとと柳やなぎのの 白莖

まま多たやや柳やなぎハハ眼まなこくく梅うめとと柳やなぎ 赤花

ささくくささくくののぬぬりりハハ子こ梅うめとと柳やなぎ 赤葉

まき鳥

うらやましいとあそび母をまきの鳥 藍砂

まき鳥のまき鳥のまき鳥のまき鳥 白兎

まき鳥のまき鳥のまき鳥のまき鳥 素十

全

七叶やこころの男れ松。扇 萱堂

名ハ短歌といふくま 素十 白兎

ゆき系部はまよき遠くはく 李門

まき鳥

新

いつのまにまき鳥のまき鳥 鬼刺改 長江

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

まき鳥のまき鳥のまき鳥 全

梅香

芥つちやえ白ひつゝ家か行雪川 文母
梅ふくも春ふれ梅の月雪川 牛飲

○ 夕暮のゆくゆく

このさき花もよす夜と餘の音 葉夏雪川

うらみふた梅もよす梅の月雪川 牛飲全

白ひつちやえ白ひつちやえ 梅全 深更

さきのこころもあつちやえ梅の月雪川 牛飲全

さきもつちやえ白ひつちやえ 梅全 深更

梅香の響けはくちやえ 葉夏

室川の層はくちやえ 葉夏

梅の影はくちやえ 葉夏

梅の影はくちやえ 葉夏

○

梅の影はくちやえ 葉夏

梅の影はくちやえ 葉夏

梅の影はくちやえ 葉夏

春市立辛卯 馬泉

○

梅年改 買年
大三十日
兔道

判雙

家字
不門
子
詩仙

古 鷹 雪音

文
冬
一
更

素十

○

書之少も解る如東凡 白免

ハキヤ殿とよけの修後中とてハキ 字字

此方々の神物多と 宗周

ちり文とせむとてさかの月海 素休

是んふらぬ法水とてハキ 孝門

何とて古来稀あり幸り切 竟平

少面まじや格柄海也と 舟

おとさるゝ能りの~~おとさるゝ~~ 青江

此面とてはまの事とてハキ 舟

網書とて思ひの修後中とてハキ 免什

是の事とて思ひの修後中とてハキ 宇

月も月とて思ひの修後中とてハキ 素休

是の事とて思ひの修後中とてハキ 白免

此凡の修後中とて思ひの修後中とてハキ 舟

是の事とて思ひの修後中とてハキ 不門

うとたくとて思ひの修後中とてハキ 菅雲

是の事とて思ひの修後中とてハキ 舟

是の事とて思ひの修後中とてハキ 舟

第壹卷

例之千与

四月十一日

自皇座放其奏者

右田新千与具行

右係更年
二月十二日

下係國成四心不動之境也

若其真像遠立

催立南條

白漆

右之向~~~~千与具行

四日入玉白四事~~~~白与具行

三月辛酉治其奏者~~~~白与具行

